

正岡 さち (島根大)

【目的】グリーンには人の心をなごませる力がある。近年、そのグリーンを室内空間に置く家庭が増えている。そこで、一般住宅の室内空間におけるグリーンの利用実態と、室内雰囲気には及ぼす影響を明らかにすることを目的とし、研究を行った。

【方法】まず、一般家庭におけるグリーンの利用実態を把握するため、松山市及び松江市において、アンケート調査を行った。その後、心理実験によりグリーンが住宅居間の雰囲気には及ぼす影響について検討した。実験は、住宅居間にグリーンを配置した画像を呈示し、Semantic Differential Methodにより男女大学生に評価させる方法で行った。なお、対象とするグリーンは床置きタイプのみを取り上げ、種類・個数・配置を変えた201種類の評価対象について行った。

【結果及び考察】①住宅内部にグリーンを置く家庭は7割前後にのぼる。置く空間は、玄関、居間がとびぬけて多かった。置く理由は「心にゆとりができる」といったものとともに、「空間にアクセントが出来る」といったアクセサリ的役割も期待されている。②心理実験では、平均SD得点を算出し各評価対象の特徴を捉え、グリーンの利用による住宅居間の雰囲気には与える影響について検討した。さらに、因子分析を行った結果、「活動性」因子、「価値」因子、の2つが析出された。因子得点による検討を行ったところ、活動性因子にはグリーンの種類と配置・個数が、価値因子には種類の組み合わせと大きさ・個数が影響していた。